

第1回石巻圏域宿泊事業者部会

【日時】 令和8年6月4日（木）午前10時から午前11時50分まで

【場所】 石巻合同庁舎201・202会議室

【委員からの主な意見】

1. 令和8年度宿泊税充当事業について

（A委員）

- 現場の業務をデジタルなどの仕組みでスマート化、効率化できる施策に重点を置いていただきたい。
- 県主導で正確な観光情報をデジタル化・一元管理化してほしい。○QRコード等を使い、体験予約や決済が完結できる仕組みを強化し、宿泊施設がハブとして機能できるデジタルシステムの導入支援をしてほしい。

（B委員）

- 未来に向けた話が多いが、宿泊業の現状は厳しいため、現状の我々の力になるような施策やコンテンツも検討してほしい。

（C委員）

- AIを活用した無人バスが実現すれば、周遊バスとしてさらに活用できるのではないか。
- レンタカー利用者に対し石巻圏域の周遊コースを提案し、圏域での宿泊と周遊を組み合わせたい。
- 石巻の魚市場や捕鯨船を活用した朝の体験企画などを構築し、宿泊に繋げてほしい。
- 宿泊税を納めた方に、次回利用できるクーポンや割引を渡すことでリピーターを増やす手法も考えられる。

（D委員）

- 食材費高騰など宿の負担が増えているため、宿に対するクーポンや仕入れ額に対する充当があれば、お客様への満足度向上に繋がる。
- 次回宿泊時の割引クーポンなどを提供すれば、宿泊税の使い道がお客様に目に見える形で伝わる。
- 漁業の船舶免許更新が厳しく体験事業者が減少しているため、事業者間の横の繋がりが整備されるとよい。

（E委員）

- 部活動などの送迎バスの条件が厳しくなる中、学校向けの補助や支援なども広めてほしい
- ナイトコンテンツだけでなく、八戸の朝市のような早朝のコンテンツに力を入れ、昼と朝、昼と夜など組み合わせた回遊策が必要。

(F 委員)

- 各地域・事業者の活動の具体例を県から共有してもらうことで、地域内での準備や課題解決に繋がる。
- 県が音頭を取り、複数市町を跨ぐ広域周遊の事例をお手伝いしてほしい。
- 宿泊税の活用事例を公開し、納税者も使用用途を確認できるようにしてほしい。
- 観光コンテンツ創出等支援事業などの補助金を、より分かりやすく使いやすくしてほしい。

(G 委員)

- 女川、石巻、東松島などの各地域の強みが分断されているため、二次交通の活用・強化で面的な周遊に繋げてほしい。
- デジタルチケット 1 枚で様々な交通手段（JR、路線バス、オンデマンドタクシー等）が利用できるような投資があると良い。
- 自然との共生など、サステナブルエコな滞在プログラムを官民連携でコンテンツとして強化してほしい。
- 長期滞在を促進するため、2 泊目以降の割引や、圏域の飲食店等で二次利用できるポイント付与などのインセンティブを提供してはどうか。

(H 委員)

- レンタカー補助は、宿泊施設で割引するなど、宿泊税が活用されていることがお客様に伝わる仕組みにしてほしい。
- 電車の本数を増やすことや、圏域内を回る周遊バスの運行に予算を使ってほしい。
- セミナー等よりも、施設のリニューアルや新規出店など、確実に地域にお金が落ちる分かりやすい使い方を検討してほしい。
- 連泊や地域跨ぎでの宿泊に対する料金補助など、お客様に直接インパクトがある施策があれば消費単価も上がる。

(I 委員)

- 車が必要な地域なので、レンタカー補助はありがたい。
- 漁港見学ツアーや朝市イベントは魅力的だが、継続させるためのマンパワーの確保が課題。
- 地理感が分からない旅行者のために、目的地までの所要時間が分かるマップがあると便利。
- 道の駅等に所要時間を示したポスターを貼り、女将や地元の人たちが楽しく話す姿そのものが地域の魅力や活性化に繋がる。

(J 委員)

- 宿泊税の導入により予算がつき、地域づくりに繋がることに期待している。県民が納得するモデルケースになってほしい。
- 宿泊施設だけでなく、祭りなど一次・二次産業を含めた地域づくり全般に波及し、手薄な伝統文化継承や自然環境保護にも使ってほしい。
- インバウンドだけでなく、東北や関東など国内のリピーターに定着してもらうことも忘れてはならない。

2. 石巻圏域における観光振興施策について

(A 委員)

- 共通のゲストガイドは、紙ベースではなくデジタルと連携し自動更新される設計が望ましい。
- 災害情報については、言語の壁を越えられるようピクトグラムで視覚化し、目立たせてほしい。
- 夜の街に出かけるお客様を増やすため、飲食店と連携したナイトグルメパスなどのパッケージがあると良い。

(B 委員)

- 観光業と宿泊業が連携を組むことでお互いに良い結果が生まれるのではないかな。
- インバウンドだけでなく、石巻の売り（海の幸、自然、歴史等）を活かして日本人客を呼ぶ対策（ガソリン補助など）を入れてほしい。

(C 委員)

- ブルーインパルス展示や Reborn-Art Festival のオブジェのように、集客力があり人を惹きつけるようなものを市町内に置くことで観光資源を磨き上げていける。
- 紙の資料は古くなるため、デジタル系のもの（ゲストガイド等）での作成をお願いしたい。

(D 委員)

- 圏域ゲストガイドについて、パンフレットと QR コードではなく、ゲーム感覚で地域を巡れるアプリにしてはどうか。
- アプリ内でニッチな名所を巡ってポイントが貯まるような仕組みにすれば、お客様自身で楽しみながら地域全体を周遊してもらえる。

(E 委員)

- 宿泊者を多く集めるため、朝市や夜市、屋形船など、泊まらないと体験できないコンテンツを磨き上げてほしい。
- 日帰りが容易な島巡りなどを、宿泊と結びつくようなコンテンツとしてさらに磨いてほしい。

(F 委員)

- データ分析を踏まえた PDCA サイクルを回し、実績に基づいた建設的な事業展開や意見交換を行ってほしい。
- 県が集積した OTA や旅行会社などの詳細なデータを民間事業者にも共有することで、戦略的なプロモーションに繋げてほしい。

(G 委員)

- インバウンドのターゲット層（体験に価値を見出す層など）を分析・明確化し、データ収集項目に設けてほしい。

○共同体を好むデジタルノマド層の誘致も有効であり、AI 等を活用して彼らの価値観を集約し観光に結びつけてほしい。

(H 委員)

○マリンスポーツと宿泊のコラボなど、体験プログラムへの補助があると宿泊のきっかけになる。

○周遊マップは紙媒体ではなく、利用者が多い Google マップなどをうまく活用・コラボして地域を盛り上げてほしい。

(I 委員)

○半島部の宿は OTA の登録件数が少なくインバウンド客が予約しづらいため、スムーズに予約や取り次ぎができるような仕組みがあれば教えてほしい。

(J 委員)

○インバウンドが地方に流れてきている中、日本の純和風の宿や和食といった本来の民宿のスタイルを次の世代にどう継承していくかが課題。

○無理に迎合するのではなく、日本食の良さなど今ある資源に手をかけて喜んでもらう本来のスタイルを大事にしたい。

3. その他

特になし